

第60回市民ふれあいトーク 【一緒に考える このまちの地域力】

日時 平成27年4月24日 18:30~20:00

場所 倉敷市唐琴公民館

要約版

市長

皆さんこんばんは。第60回目の市民ふれあいトークで、久しぶりに唐琴の公民館に上らせていただきました。前回平成23年の夏、東日本の大震災が起こって割とすぐだったように記憶しております。その時も災害のこと、まちづくりのこと、色んなご意見を頂きましたが、その後、最近は「一緒に考える このまちの地域力」として、また、昨年度～一昨年度は子育て、環境、自然とかをテーマにしたり、去年から地方創生という事がテーマになってきておりますので、各地域の地域力ということにテーマを当ててお話をさせていただくという機会となっております。8時位までの1時間ちょっと、最初に私から最近の状況をお話させていただき、児島に対する私の思いをお話させていただいて皆さんと意見交換させていただければと思っておりますので、よろしくお願い致します。

さて、最近の倉敷市の状況、日本の状況、岡山県の状況でございますけれど、去年あたりから地方創生が「まち・ひと・しごと・創生」が話題になってきていると思います。日本の人口が約1億2千万人、このまま何も地域の活性化とかをしなかった場合、50年したら3分の2の8千万人になることが、元総務大臣の増田寛也さんという方が出され、これはいかんと、色々な考えを巡ったり会議をしたり、取組をしている現状だと思えます。

去年から国の「まち・ひと・仕事・創生会議」が開かれ、安倍総理が議長になり各大臣がメンバーになり、全国から12人の民間、有識の方が選ばれて、私が全国の12人の有識者に選ばれて、有識者かどうかわからないんですけど地方公共団体の中では一人、内閣府の方から電話がかかって来て「倉敷市長さん、メンバーになってください。」と言われ、何でと言いましたら、「倉敷市が取り組んでいる色んな取り組み、市だけじゃなくて町の取り組みが非常に良いと思っているんで、そのことを発表して全国の参考にしたいんで入ってください。」と言われました。昨年9月から4回、9、10、11、12月と毎月1回官邸で会議があり、倉敷市の発表、他の色んな農業とか、大学教授の方の色んな発表がありましたけれど、どういう会議だったかということでお話を申し上げますと、よくテレビで見る官邸の2階の赤じゅうたんで大臣が並ぶ所の隣の部屋ですけど、そこで会議があり大きな机があり片側の真中に安倍総理はじめ麻生副総理、石破茂担当大臣とか並んでおり、逆側に有識者が並んでおります。私がいつも真ん中あたりの席で、安倍総理と麻生さんの近くの方で。この前4月に会った時には安倍総理の目の前だったんで目のやり場に困ったんですが、最近では安倍総理か麻生太郎さんの目の前が多くありましてよくお話をしますが、麻生さんが会議の時に来ます時に、この服で行ったんですけど開口一番、「伊東さん、デニムの上着格好じゃない」と言われました。児島の繊維ですと言いましたら、麻生大臣は倉敷市のこと、児島のことを非常によくご存じで、青年会議所の時に一緒にされた方が児島出身だということ等々、倉敷市児島に対して非常に良い印象を持っていただいております、お金の担当大臣ですので倉敷市の為もそうですけれど、自分の政策を色々やってもらいたいというお話をする大きなきっかけともなり、頑張っております。

その会議で何をこの国の為にとっていくべきか、今1億2千万人の人口が50年経って8千万人じゃなく何とか1億人ぐらいだったら国としてやっていけるというようなことみ

たいでございます。そのためにはどうすればいいかということになると、今東京に高校を卒業してからもしくは大学を卒業してからの就職の時に東京に多くの方が行ってしまって帰ってこないということが社会的に問題になっているということになっています。それゆえますます東京に人が吸い上げられていって地方が過疎化とかしているということですので、国全体としても東京に人が来ないように、少しでも地方の方で色んな仕事が起こり、子育てしやすい、そういうようなことをやっていこうというのが国の方針として今出ているところであります。

倉敷市が何を発表しているかと言いますと、私の大きな公約の一つ「子育てするなら倉敷で」という取り組みをして、倉敷市が去年一昨年と保育園を5つ新設をいたしました。

また、幼稚園とか保育園で幼稚園の3歳児保育とか延長保育とかをすることによって、お父さんお母さんが子どもを預けて働きやすいような環境をつくったり、働く女性、男性が働きやすいようなということを6年位してきたら、市全体の合計特殊出生率という数字、全国の数字は1.43でございます。岡山県は1.49、倉敷市は今1.61になって、この0.1というのは非常に大きな数字で、倉敷市はどうやったら他の市と比べて子どもさんが多く、皆さん2人目、3人目をもとうかということになっているのかということを発表してもらいたいということでもございました。一つには保育園をつくる、もしくは学校の学童保育を充実をして、学童保育の預けて働くお父さんお母さんが働きやすいようにすること。それから私の公約でもありましたが子ども医療費の小学校6年生までの公費負担をこの4月から入院の分につき中学校3年生まで引上げさせていただきましたが、そういう環境を整えることによってこの率が上がっていきましたということをお話したり、また、児島の国立公園の観光地域、倉敷の美観地区の町屋、古民家の再生等々を行うことによって町の観光客が増えていますということや、船穂ワイナリーのマスカットオブアレキサンドリアを使ったワインを作ったり、この児島の地では日本を代表する学生服、畳べり、繊維産業など今ではジーンズストリートがございますけれど、そういうものを一生懸命発信をしているというおはなしをしております。

今元気な自治体はその自治体にしかない特色を出して、かつ、歴史とか背景と一緒にして全国にいかんに発信をしていくか、世界に発信をしていけるかということにその町の趨勢がかかっているということが非常に多いと思います。それによって働き口が出来たり、こちらに来て働いてみようかという方が増えるということをやりたいと国も思っており、私も頑張っていきたいと思っております。

今倉敷の美観地区もそうですし、この前児島の商工会議所が主催をしてくださいました地域の今後のあり方を考える会の中で、外国人の観光客の方が非常に増えてきているんですけど、唐琴地区では王子が岳ではどうでしょうか、皆さん。この前曾原のタケヤリさんの所までは今割りと来はじめていると聞きました。ジーンズストリートにも来出しているということでもございますが、後で皆さんの方からもご意見を伺いたいと思っておりますが、昨日一昨日平日でしたけれど美観地区であった会議に参加した時に、台湾、中国、アジア圏からの観光客の方がたくさん美観地区の方には来ておられました。美観地区の方では免税の手続きをするようなお店も非常に増えてきたり、2020年に向けての外国人観光客の方の誘致等もやっていく必要があると思っております。

当唐琴地区、児島地区には日本で最初の国立公園の土地であり、ここ何年かの中で一昨年の鴻八幡さんの引網のたんじりが百年ぶりに戻って、元々地域の結束が強い素晴らしい

地域であると思っており、このような伝統的なものをさらに発展させて前に進めていく多くの方が鴻八幡さんの祭りも外国の方もますます来られるんじゃないかと思えます。色々な面で是非地域が発展するように一緒に活動していただければ大変ありがたく思っております。私ばかりしゃべってはいけないと思しますので、皆さんから、今話をしたようなことから全然関係がないようなことでも何でも、是非この唐琴、田ノ口、児島地区、倉敷市全般でこういうことをやっていけばもっと地域が発展するなとか、地域の課題について意見交換が出来ればと思っておりますのでよろしくお願い致します。

参加者 A さん

先ほど市長が言われたんで、実際に倉敷市としてはパリだとかにジーンズの展示をしたりとか、展示会へ出て行ったりしているんですけど、そういう時に文化という部分をもう少し発表できるような場があればいいのかなと思っており、先ほど言われた祭りであったりとか下津井節であったり、あるいは瀬戸内海の魚の食文化であったりとか、あるいは景観だったり、文化の情報発信を今後どういうふうにしていくのかちょっと分からないというところ、先ほど言われちゃったんですけど僕も一昨日美観地区を回っていたらフランス人観光客に取り囲まれたような形になりまして、基本的に今来られているのはパッケージのツアーで、ツアーコンさんが旗を持って歩いてましたので、その人たちにいかに児島に来ていただくのかという戦略みたいなものがあればお聞かせいただければと思えます。

市長

有難うございました。多くの方にこの地域に来ていただくというために、いくつかのことがあると思えます。外国人観光客の方で言えば、最初はパッケージツアーで来られて非常に気に入られた所については個人で来られる。もしくはパッケージで来られた中で良い写真を撮られて自分のブログとかで発信をされて、それを見てこちらに来るといふことが多いと聞いております。確か先日の夕方のクローズアップ現代で、外国人観光客の方の旅行の動向というのがありましたが、国によってずいぶん違うみたいでございまして、ベトナムやタイの観光客の方は非常になかなか人が来にくいような所に色々調べて行く、つまり穴場と言いますか、そういう所に行ってみたい。もしくはドイツとかオランダの人とはとにかく町の中を歩いて人とちょっと会ったりとか、挨拶したりとか、町の風景を感じてみたいとか、国によってずいぶん違うというふうに向っております。倉敷市もまだまだ英語と中国語と韓国語とかホームページの充実がまだまだこれからでございますけれど、ホームページの充実とあとは色々な個人の方が素晴らしい風景を出していただけるようなスポットの紹介とか、そういうことをしていきたいと思っておりますし、文化の発信をやっていきたいと思えます。当地唐琴は古くは道真公がいらした所、また百済のお姫様が来られたということから名前の由来になっていると伺っておりますし、今まさに韓国、朝鮮半島と日本の関係ということもありますので、そういうことを見直されていくんじゃないかと思っております。色々な面で昔からの文化を発信していくということに市としても力を入れたいと思っております。

今の A さんが言われたような文化とか観光、そういう面でご発言、文化、観光、産業何でも結構でございますが、いかがでしょうか。

参加者 B さん

市長，はるばると当地にきてくださり，ありがとうございます。今唐琴が最近取り組んでいます重要なこと言いますか，行事，正月のどんど焼き，これは2年ほど前からやりました，これは長寿会さん，婦人会さん，子ども会さん，栄養改善さん，色んな団体の人が取り組みましてやっています。それと，今市長が言われましたように鴻八幡宮の例大祭の引網だんじりの運行ですね，これは今年で3回目になるんですけど，これは小さい子どもさんからお父さんお母さん，お爺さんお婆さんにかけて親子3代皆さんが集って楽しめるという行事でありまして，特に子供さんは小さい時からお祭りを通じて楽しい思いをして，大きくなって唐琴に対する愛着というものが育ってくるんじゃないかと思っております。その子どもさんが大きくなって「わしはもう，唐琴から出とうねえんじや」と「この場所にずっと居りたいんじや」と水島，岡山へ就職しても「家を建てる時は唐琴へ建てよう」というふうになって。このために唐琴だんじりをこれからまだまだ発展させて町一団となっていきたいと考えています。

それと防犯，防災ということで。防犯という面に関して今年市と県の補助金をいただきまして，出入口にカメラを取り付けました。西の端の出入口，東の取り付け。ポンプ場のある道路の横です。それと向こうの王子が岳の下の方です。それと加茂路の唐琴側の3カ所につけました。これで唐琴に出入りする車が全部チェックできる。防犯にも役立つし，万が一の時に早期解決にも役立つというようなことで，今年もあと3台ぐらい検討していますのでよろしくお願いします。

それと防災の面で今唐琴には自主防災が現在あるんですけど，なかなか成り立って行かないということで，今オール唐琴と言って唐琴自治会中心に全員が防災に参加して自主防災が進んでいるということで，具体的に言いますと誰が誰に声をかけて，どういうグループがそれを支援するかという。これは東南海・南海地震ということじゃなしにちょっと大きな災害，平成16年あたりの災害を想定してやっております。それで第一に一時避難所がなかなか八幡様とか天津神社とか山の中にあるところばかりで，なかなかないと。本当言えばこの公民館が一時避難所として最適の場所なんですけど，平成16年に浸水しまして，なかなか。それでこの公民館ももう30数年，建て替えの時は上の高地の高台に。それが万が一の時に我々が探しますので。よろしくお願いします。それと，ここ一帯16年に浸水したんですが，その大きな理由は，溜まった水が引かなんだ。水門を閉めてポンプ場がその時に・・・計画もあると思いますけれど～まあ，以上です。

市長

唐琴の自治会の各町内，うちの市民活動の方からも自治会の組織とかも非常に活性化するようにと色々組み立てをされまして大変ご苦労さまでございます。

まず自主防災組織のことですけれども，全戸加入なんですよね。確か100%？

参加者 B さん

そうです。民生委員さんなどにご協力をいただきまして，独居の人とか75歳以上で，ま，そういう人を全部ピックアップしとんです。それから一人でできない人というのをピックアップしまして，支援の団体が支援して一時避難所へ連れて行くと。

市長

分かりました。倉敷市の今の自主防災組織はまだ50%ぐらいでございまして、やはりこの児島地区は16年の浸水被害があったということで、高い意識を皆さんが持っていておいておりありがたく思っております。今言われましたように具体的にいざという時に誰が大体担当されるかということまで決められている所はまだまだ少ないと思っております、本当にそこまでできていったら非常に実効性がある、みんなで勿論声をかけていくことだと思っておりますが、また、今南海トラフの地震の確率は以前30%台でしたが今は40%台になっていますし、今、日本でも噴火が、この前の御嶽山であったりチリであったり、地球自体が火山活動が活発に、鹿児島も結構吹いていますし、南海トラフの地震もそんなに遠い時期じゃないんじゃないかと思っております、非常に心配をしておりますので、いざという時に、ここは内陸、瀬戸内海ですので、パッと来るとということはないんですけれど、この公民館は浸水も前もそうでございましたので、いずれ建替えの時には可能でしたら少し高台の方へということが出来れば良いなと私も思っております。

それとさっき、加茂路のことを言っていたいただきましたけれど、私が市長に就任してこの地区は東の道と西の道と一本でございまして、いざという時に加茂路の方でそこが大きな逃げ道ということがあったので昭和62年から始めてきて皆さんにご協力いただいていた事業でございまして、あと一息ということでしたので色々皆さんの方にご協力をいただいて何とか早く開通をしたいと思ひ、確か前回このふれあいトークの1年後位に開通という状況になったと思ひます。

今浸水のものも時、ここでなければ琴東の小学校、幼稚園、この辺でといたら東の方の上がる道、王子が岳の道か、加茂路の方かというのが実際のところパッと逃げるには一番良いんじゃないかと思ひますし、ただ避難所となればそういう所に今ないからということがありますので、中期的には建て替えとなった場合には色々な面でご協力をいただければと思ひます。

防犯カメラは、また出される場合には事前にご相談をいただきまして、順番というものもあると思ひますので早めにご相談をいただいた方が良いかと思ひますのでよろしくお願い致します。

引網のだんじりは、本当に歴史のあるものでございまして皆さんから待望されての復活だと思ひますので、是非歴史と合せて発信していただければと思ひます。私、個人的には鴻八幡宮のお祭り、玉島地区で言いましたら乙島祭りがございましてけれど、こちらのお祭りも地域の歴史を語るいずれも市や県の重要文化財、しゃぎりとか、なっておりますけれど、全国とか外国の方が見たら本当にびっくりするお祭りだと思ひます。今のところあんまり外国の方は来てないですかね。(何人かは来られるね。)発信したらものすごく来ると思ひますけれど、来ても大丈夫ですかね。(触らせてあげたら来ると思ひます。あれは触りたいんです。でもあのお宮でははっぴを着なかつたら触れないんでなかなか難しいと思ひます。)歴史の発信を頑張りたいたと思ひます。ありがとうございました。

参加者Cさん

この山の時は、すぐ見に来てくれ工事をしてくれてありがとうございました。それと港のポンプ場も工事するように現場を見て予算を付けてくれて、その件であれだけの浜が出来て、観光とかいろんなものに使うには、夏なんかは使えばあそこは人が来ると思ひます。

す。そのためには市が陸地申請してトイレを付けてもらわなったら使いにくいと思うんです。トイレも何もなかったら来てもらってもそこらに迷惑をかけると思うんです。

それと、ここの公民館の横の道を。図面はできとるんです。予算を付けて道幅を広げてくれたら災害の時避難する時に下の人がすっと行けると思うんです。この道幅ではちょっと難しいと思うんです。この2件をよろしくお願いします。

市長

線はできているんですか。(建設の方でちゃんと図面できています。)はい、検討してみます。海の所の夏の利用は、日頃皆さんがお散歩して下さったりということだと思っんですけれど、夏は?(トイレがないから開けられんです。)なるほどですね。個人的にちょっと入ったり、大々的には。(近所の人が入るだけです。あそこを開けて入っても、トイレがなかったらちょっと。)海岸みたいにはなっていないわけですね。(港湾事務所に言ったら、倉敷市さんの方で陸地申請してくれんと付けるわけにはいきません。)陸地申請したらできるということですか?(陸地になれば何でも付けられます。)なるほどですね。管轄は県ですね。(海の中ですから国のものです。それで県の管轄です。)陸地申請をするとトイレができる。今は海の中ということですね。(今付いている歩道も海の中の道なんです。したがって前の堤防がとれないんです。)それはなくても大丈夫なんですか。(海の埋め立ていた所へトイレでも、簡易トイレでも置こうとしても、あそこへは海の中ですから簡易トイレでもおいたらいけませんと言われる。倉敷市さんに言って駐車場の所だけでも陸地にしたら物が置けますよと。)検討してみます。すぐ出来るかどうかはなかなか難しいかもしれませんが、先ず検討してみたいと思います。

参加者Dさん

3丁目理事のDと申します。よろしく申し上げます。安全・安心のまちづくりの事で2点ほど。自治会長の方からもありましたけれど、平成16年の台風の時に、ここの公民館も表に線を引いてありますけれど、あそこまで冠水したということで。その後ポンプをつけるという図面までは出来たようにお聞きしとりますけれど、その後進展が無いようなということであり、大きな河川ではありませんので、台風シーズン、高波あるいは集中豪雨ということで堤防を閉め切ると、山からの増水で冠水してしまう、あるいは堤防を乗り越えて潮が入って来るという状況で、やはりポンプがなかったら、4丁目、3丁目の一部、2丁目を含めて、冠水してしまうという状況です。毎年台風シーズンになると、市の方からあるいは消防署のほうから、何回か消防自動車が駆けつけて、ポンプで水を出しておるという状況ですので、このほうの見直しをひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

もう1点は、琴浦園、養護老人ホームがございます。今運営はしおかせさんでやられているということではありますが、ここも高潮があれば16号台風の時には完全に浸かってしまつて、玄関の入り口まで潮が来たということで、災害が起きれば、山崩れは恐らくないにしても、高潮等で避難ということになりますと、逃げ道がない。北へ行つても行き止まりの道ということで。一応王子が岳に避難場所もあるようすけれど、王子が岳でいうと道を国道に出て迂回しなければならぬ。まっすぐ山の方へ抜ける道が王子が岳に通じていない車が通れないということなので、この方も一つご検討をお願ひしたいと思ひます。災害時の避難場所ということであればそちらの方に逃げるしかないということでもあります。

ので、よろしくをお願いします。

市長

はい、ありがとうございました。たぶん番東川の事のポンプの話ではないかと思います。市の浸水対策の中で、いろいろ各地区の解析をしてですね、それから順次にということになっておりまして、道路の事、それぞれの浸水対策という事で中々順番が回ってきていないのが現状です。それからどのくらいまで対策をすべきかによって、費用が莫大にかかる部分と、それから、中くらいで済むとか、そのあたりのところをどういう風にするかというのを考えていくのが両方必要な状況とっております。今当面はポンプ車でありませうか、この地域は16号の時に非常に浸かったということがありますので、ポンプについては、とにかく優先して早く配備をと考えております。

現状は、もちろん先行き、できれば施設という事は思っているんですけど、中々まだ具体的には「何年から工事をします。」というところまでは行っていないのが現状です。ただ、どういう風にすべきかということについて私だけが考えるわけではございませんが、頭を悩ませているという現状ですので、また予算とも合わせながら、実際に地元の皆さんと相談をしていけるようなことをやっていく必要があるのかなと思います。

参加者 D No5 さん

平日ですね、そう水量がある川ではないんですけど、たまたま集中豪雨の時に急激にということで、その増水した分だけかいたすという状況でいいんじゃないかと、私は思うわけですけど。そんな莫大なポンプは必要ないんじゃないかと思うんですけど。そこらへんで、予算もありましようから。

市長

はい、それができればと思っているんですが。琴浦園の方は浸水区域だったということもありますし、ただ、今すぐに移転ということでもないですけど、今後の施設の年数を見たときに、また市としてどこに配置するかということを考えていきたいと思っております。

市の方では届け出避難所という制度を新しく作っております。玉島でいえば、岩屋という地域。児島ではまだ届け出避難所はないやに伺っているんですが、沙美の海岸から南浦の、市の一番向こうですが、その間に岩屋という地域があり、そこには避難所がないんですが、そこから両方どちらに行くにしても非常に険しいところを歩いていくようになるので、地域の集会所を一時的な避難場所にしたいという事で、市がいろいろ調べてOKができれば、一時的な避難所という制度もありますので、公民館が建て替わるまでの間そういった場所がないですかね。

参加者 B さん

一時的なのは3~4か所あるんです。申請はまだできてない。調整中でINGの段階、候補地としてはあるんです。ただ、何日もになると行政にお願いするしかないです。

市長

なるほど、わかりました。

参加者 Eさん

失礼します。私は王子が岳一帯の地権者であります，唐琴観光開発で大変お世話になっております。もう一つ，王子が岳の景観を楽しむ会の会長のEと申します。今日お尋ねしたいのが，昨年，瀬戸内海国立公園制定80周年でサンセットフェスタ in 児島，それと王子が岳のウォークラリーで，王子が岳のPRをしていただいて非常にありがたかった訳でございますけれど，その素晴らしい景観である王子が岳の一角に廃墟ホテルがいまだにあるということで。これは市長へ言っても・・・(市長：玉野市？)そう，玉野市なんで，玉野と倉敷の分岐のところで，持たれている方が玉野の個人の方で，バブル末期のころの環境省の，環境財団が仕掛けた建物で，それを地元の観光業者で内装に手を入れるという計画だったんですけど，バブルがはじけて成り立たないということで，建物だけできてそのまま止まっているのが現状です。建物を建てて，内装を観光さんがやるというまま手を引かれた。そこから一步も前に進んでいない。現在は個人の持ち主の方が，会社をやられているので，週に一度くらい掃除に来られる。汚いことはないんです。窓も割るところがないくらいきれいに割られていますし。そういうことで地元の人では「幽霊ホテル」と言われたり，いろいろな呼び名があるんですけど，せっかくきれいな王子が岳の一角を，そういう景観を損なう建物がいまだに残っている。これを取り壊しするにしてもかなりの大掛かりな工事になると思いますので，市だけではなくて県，国の方も巻き込んでいただいて，取り壊すなり，何か利用，跡地利用を含めた地元活性化につながるような，なんかこう素晴らしい，倉敷市から発信が・・・普通にこういう話をするとまず地元が何か絵をかいてやるという事なんですけど，先ほどから話が出ていますように，唐琴は非常にまとまりのいい町なんで，唐琴自治会を中心に我々も協力させていただいて，せっかくの景観を損なうようなホテルを早く何とかしたいと考えているところなんですけど，いかがお考えでしょうか。何かいい知恵があれば教えていただければと。

市長

あの建物は，築どのくらいなんですか。(30年位ですか。)平成の初めくらい？今から内装をしてどこかがやるというのは難しいでしょうね。

参加者 Dさん

その件についてよろしいでしょうか。私の聞いた範囲内ですけど，今個人が持たれているという話ですけど，これは が持たれています。この方と先般いろいろ話をしましたところ，Dさん，どこか買うてくれるところはねえじゃろうかと。活用方法を考えてくれと言われたんですけど，2億数千万で購入されておられるという事です。なんかの活用を図ってもらえんじやろうかという事は，持ち主の方からも言われてます。

参加者 Eさん

今はたぶんお金の提示はないと思う。買い取ってくれる方がいるんなら，タダでもあげるといような感じの話です。(市長：ちなみに倒すのにどの位かかるんですか。)解体が1億位。ただでもらってもマイナス1億。まあ誰も引き受ける人はいない。ですから壊して跡地利用を考えるしかない。倉敷ではない，玉野市の方に話をしてもよそをむかれる。

環境省に話をしても乗ってこないんです。

市長

いや、ほんとにあの近くまで行ったことはありますけど、なかなかこの景観にあのホテルというのが、やっぱり。あれはでも本当にいいホテルだったら絶好の場所ですよ。でも今からだと難しいんですね。あのホテル、アルカディアでしたっけ。一回倒すとなればもちろん環境省もつくることは認めないという事になるんで、でもまあもう一回何かしらというのは難しいわけですよええ。

少なくとも玉野市長に会うたびに、何とかならないかという事は言うようにいたします。景気が良くなってきたら、買い取ってという方が・・・何とかならないですかねえ。

参加者 F さん

唐琴自治会の事務局を担当しております F と申します。王子が岳の話とか色々出たんですが、私は、雇用促進住宅がございましてけれど、あれを取り壊すということで、住民の方はまだ何人か残られているかもわかりませんが、いずれ取り壊しになろうかと思うんですが、その跡地を、ぜひグラウンドといいますか、自由に使える広場として市で管理、整備をしていただけるとありがたいなと。今、唐琴が割と元気がでているのが、個人の持ち物だったんですが、子ども広場ということで、教育委員会で借り上げて子ども会で管理して、そこを利用してたんです。大勢の方がそこでいろんな行事ができたり、そこで横のつながりができたんです。それが今は、個人の土地ですのでソーラー発電の施設になってしまっているということで。何をしても、安全安心で防災訓練をしようとしても、広場が今はないという状況です。ぜひそういった利用ができれば、上物を建てるという事だと予算もかなりかかろうかと思うんですが、整地をして広場にするだけだとそんなに費用はかからないと思いますので、ご検討をお願いします。

市長

雇用促進住宅は土地は国のものですか。雇用促進住宅は国としてはなるべく無くす方向で、市内のいろんな地区にあるものも、そういう方向になっているかと思います。一時今止まっていますけど。もし、跡地の事で市の方でなにか関与できるものであればですね、はい。市で買ってくれと言われると困るんですが。まず調べます。はい。調べます。

参加者 G さん

皆さんシートベルトを毎日されていると思うんですが、シートベルトの効果は、衝突したら前に飛ぶ。交通事故を起こしたら前に飛ぶ。交通事故を防止してるんだから、交通事故防止だけでいいと思うんです。それを皆さんは、効果をどう考えているのか、死亡事故が減るとか言ってますけど、交通事故を起こすから人を撥ねるんです。お分かりですか。それを、皆シートベルトすれば被害が減る？被害が減る交通事故なんてありやあせんですよ。まあ、やってみてくださいって警察官に私は言ったら、とうとう警察官も帰ってしまっただけ。今まで、免許とりあげるぞっていったんが、今頃は全然何も言わない。交通事故を防止することが大切であって、シートベルトして助かるんじゃないかと、それも前に衝突してから前に飛ぶんです。衝突させなけりゃ、相手にも被害を与えないし、自分も安全に

なるんです。こういう法令をいかにも当たり前のように言って皆さんにさせるというのは、ちょっと間違っている。だから私は壁なんかに衝突しているところを見せてそれが交通安全になるんじゃ、なるんじゃということを、皆に教えてやっていますけども、実際に一回やってみせてください。助かるところを。衝突して事故時には大抵被害が減るんじゃなしで、皆さん、事故時には交通事故になりましたという、警察に届けにやいけないんです。そのときに被害が減るといって、皆、本に書いてたとおりに読んだらそう書いてある、事故時に被害が減るといって。事故時に被害が減らないから交通事故になっているんですから。シートベルトしたら、被害が減るといって、毎日しとる馬鹿があるけど。全然ちがうと思いますよ。おかしいと思う。

市長

なるほど、分かりました。シートベルトの効果のお話だと思うんですが、私もなかなか交通のことがパツとは分かりませんので、交通の方に聞いてみたいと思います。

参加者 H さん

唐琴の H です。唐琴にとってのランドマークは間違いなく王子が岳と思うんです。景観を世界中に発信すればすっごい効果があると思うんです。そんな中で、数年前に国民宿舎、先ほど市長言われましたけども、国民宿舎は閉鎖になりますよという説明がありまして、じゃあ、そのあとをこういうことを考えてますよ。優秀な市の職員の方が 2 万 5 千分の 1 の地図の上にはですね、鉛筆舐めなめ、ここへトイレ作ったらどうかとか、ここをこうしたらどうかというようなことを言われましたんで。今ランドスケープとかそういう考え方が進んできて、世界中でそういうとりあげ方されてやっているんで、そういうことを考えていただけませんか。

また、優秀なコンサルタントの方に来ていただいて、一緒に、最後は絶対市民ですから。住民と行政も含めてやっていくんでお願いしますと言うんですけど、全然、何の音沙汰もない状況です。地質学的にも、環境、自然の問題にしる、先ほどから言っている文化、歴史、トータルに考えて。しかも国立公園のど真ん中にあると。唐琴、他の地域のこともそうですけど、やっぱり一体的に、色んな人の意見、行政の考え方、市民の意見、それと専門的にしている人の意見などをトータル的に考え、先ほどから出てる、将来的に考えていくべきじゃないかと思うんです。それが、トイレがあって他に何かあればそれでいいんじゃないかという、でもそれは、国立公園のど真ん中としては寂しいんじゃないかと。もっとトータル的にしていただければと思いひとこと喋らせていただきました。

市長

はい。ありがとうございます。国民宿舎の王子が岳の分につきましては、老朽化がとにかく進んでいて、取り壊すしかないという状況でございましたので、地元の皆様のご心配をいただく中で、ご理解をいただきまして解体ということになりました。

今後についてですが、国立公園地域ということで、建物が大きいものはなかなか難しいということが先ずあります。国の方から私が、最近の話ではないんですが、聞いている範囲では、トイレとか、あずまやとか、その位でしたら、許可が出るんじゃないかという位のことなので、大きなものは難しいんじゃないかとは思っております。

参加者 H さん

何があってもいいんですよ。無くてもいいんです。何もなくてもいいんです。

市長

今のままじゃいけないとは思っております。そう遠くない時期に地元の皆さんと、市がトイレとかを考えているとかは聞いているんですが、皆さんにご相談をしてやっていきたいなと思っております。今のままではいけないと思っておりますので。

それと、ランドマークとして、前も言ったと思いますが、私が最初に王子が岳に来たときに思ったのは、すごい景観プラス、ハワイのダイヤモンドヘッドみたいな、日本のダイヤモンドヘッドだとほんとに思います。ほんとに形がね。向こうがこっちを真似たんじゃないかと思えますけれども。たぶん、歴史からいったら向こうがこっちを真似たんじゃないかと私は思ってますけど。まさに、ダイヤモンドヘッドだと思って。そういうこと言っている人あまりいないですかね？（います）います？少数位ですか・・・なんか、そんな色んな発信の仕方もしたいなと思っておりますが。

さっき E さんも言われましたけれども、80周年のとき、ほんとに皆さんが来てくださって素晴らしい場所だということもわかっていただいているかと思っておりますので、折に触れて、そういう機会も、皆さんのご協力をいただきながら、できればありがたいと思っております。王子が岳の景観と鷲羽山から見る景色は、本当に、国立公園の景色だと思うので、外国の方がきっとたくさん来られると思います。

参加者 H さん

そんなか、だからこそ、なんでコンサルタントを入れないのかなと思って。

市長

なるほどですね。お金の面かもしれませんが。そんな高くなくてもできるかもしれませんね。わかりました。

参加者 I さん

田の口からまいりました I と申します。繊維のまち児島、外国から技能実習生が多く来ています。観光の時代、これから少しずつ進んでいく分野ですけれど。2008年リーマンショックで、総社市は、ブラジルからの方が職を失い、少しずつ仲間が帰って行ってポルトガル語が通じるコミュニティもなくなって苦しむ姿をテレビで見ました。

今まさにそういう問題が、児島を初めとし倉敷でも起きています。どういう労働状況かという、言いにくいことですが、法律違反のような低い賃金で12時を過ぎるような、日曜日も出て来いと言われていています。日本語を学習サポートしているボランティアを私はしていますが。この流れはしかたがないが、そうした方々に何らかの対応をお願いしたいと思います。素人が集まったようなボランティア団体で対応しています。日本語をうまく教えることも中々難しいです。

それと、私自身倉敷市にも大変お世話になっております。文化観光部の国際課にも活動実態を報告し、お助けもいただいておりますが、それをまとめているのは日本人です。日本

人本位のまとめ方になり、生徒たちは何を望んでいるのかというところにギャップを感じます。年代は20代～30代。これから働いて何かしよう、日本語の資格をとりたいという気持ちがとても強い。それに対し、これもいいにくいことですが、私もその一員ですが、ボランティア団体のスタッフの中には交流をしようという方向に力を入れています。力を入れるポイントにギャップを僕は感じています。カラオケ大会をやる、卓球をしたら楽しいんじゃないか、パーティーをやる、とか。倉敷の日本語教室という倉敷にもあるホールが日本学習に力を入れているということも聞いています。3年で帰っていく彼女たちに日本語に力を入れて本当にもっと対応して欲しいと思います。ボランティアの仲間たちのことを言うのもなんですが、ギャップを感じています。国際課の方もボランティア団体の日本人スタッフから資料を受け取るだけでなく、どんな労働条件で働いているかということも、直接市の方が調べて聞いてほしいと思います。よろしくお願いします。

市長

ありがとうございました。外国から来られている研修生の方たちへの色々な面のお話をいただきました。もちろん国で研修生の受け入れが決まっておりますので、市としても皆さんからいただいたお話、企業の方との繋がりなり、連携、国際課の方にも言っていたということなので、話を聞いてみたいと思います。

参加者Jさん

児島で小学校教員をしています。市と連携して認知症予防の脳トレ教室をやらしていただきたいと考えています。小学校4年生の子に「認知症って知っている？」と聞いたところ、うちのクラス32人ですけど知ってた子が2人。これから認知症の人を支えていかなきゃいけない、サポートしていかなきゃいけないという国の新オレンジプランが出たなか、そのような状況でいいんだろうかというのは、問題意識としてあります。

私たちはトス(TOSS)という全国で約1万名の教員の団体に入って、現場で子どもができるような教育技術を広く皆に共有財産化していこうという動きです。

今まで教室で教育技術を活かしていくという流れだったんですが、今度はその技術を地域で貢献していこうという流れで、観光でいうと子ども観光大使といい、児島地区でも昨年5会場、瀬戸大橋や藍染、様々な活動をやってきました。その一つとして脳トレを新たに考えています。昨年11月、市から後援をいただき、児島の市民交流センターで脳トレをやりました。高齢者の方、子どもたち、スタッフ50名ですが、下は小学校1年生、上は82歳の方も来られました。82歳の方が講座のあと言われたのが、普段は出ないんですけど、子どもたちの笑顔がみたいから今日は歩いてきました、歩いて来られました、って言われて。すごい子どもたちに元気をもらいました、という声をいただきました。私はそういった高齢者の方が子ども達がいることですごい元気ももらったりとか、子ども達もこれから先高齢者の方を支えていく世代になります。そうした交流の場を作ることが必要と考えています。全国では山形、栃木、市と連携をして脳トレ教室をやっているところがあります、私たちの団体で。全国で、市と連携しなくてもこのような脳トレ教室を、ほぼ全国でやっています。どうか市と連携してやらしていただくことで、大きな広がりをつくって、子どもたち、高齢者の方も巻き込んで地域力を高めていくというような倉敷市にしたいと考えています。お考えをお聞かせください。

市長

ありがとうございます。昨年も子ども観光大使の色々な事業でお世話になり、ありがとうございました。若い先生方が子どもたち、今度は高齢者の方と子どもたちの交流を通じて、健康長寿社会をつくっていかうということで、素晴らしい取り組みだと思いますし、倉敷でも、さっきのトスのメンバーの先生たちがそういうこともやっぴいこうということですよ？（はい。）なるほどですね。大変ありがたいことだと思います。

実は、倉敷市でも今、健康福祉の分野で、今までだったら年配の方は年配の方の担当が、老人ホームだったら老人ホーム、ということだったんですけど。今は、今言われたように、老人ホームの方と、保育園とか幼稚園とかの子どもたちも一緒に交流できるような施設とか、そういうような仕組みを進めていきたいと思っていますし、かつ、そういうところでは、非常に高齢者の方も元気がでるし、子どもたちの顔も見れて嬉しいということがあるという話も伺っております。市としてはそういう方向に。子どもたちと障がいのある方との交流とか、そういう面も進めていきたいと思っていますので、具体的に他の地域でもされていると聞きましたので、うちの福祉の方とも話をさせていただいて、何かうまく一緒にできるといいなと思いました。

参加者 J さん

はい。ありがとうございます。

市長

また、教えていただきます。よろしくお願ひします。

参加者 L さん

中庄のイトーピアから来た者です。今日お伺ひしたのは、唐琴自治会が、市長とこういう場を設けるといふことが耳に入りまして、ぜひ、この自治会は素晴らしいと聞いておりますので、何とか我々 480 軒あるイトーピアの自治会ですけれどこれを取り入れて、やっぴいきたいな、と思うわけです。横にいる者は以前の自治会長、私がこの 4 月 1 日から自治会長になりまして、何か自分の自治会がよくなればと思ひ今日お伺ひしました。ぜひこのトークを中庄学区で今日はお願ひしたいなと。今日質問はたくさん持ってきたんですが、今日は、皆さんの場違いのところ、いろいろ私どもの質問があったらいけないので、今日は控えておきますので、今度はぜひこの場を中庄にさせていただきたいなということをお約束したいと思ひます。

私は市長の追っかけではないけど、今日は市長がここへ来られるといふので、追っかけのように来たわけ。市長は非常に行動力があるといふことで安心しておりますけれども、市長と年に 1 回手が握られるんですよ。それが楽しみです。温かい手、ツデーマーチです。我々年寄りはお歩くことがとても大切で、私もツデーマーチはずっと出ております。今、倉敷ハイキングクラブの自然保護部長をやっております、約 220 名会員がおります。まあいろいろそういうことで健康と言ふことが大事でございますので、またそういうこともご相談に行くと思ひますけどよろしくお願ひいたします。

今日はよそから来て時間をくって申し訳ありません。今日のことは持ち帰って、自治会

の発表に頑張りますのでご支援をよろしく願いいたします。ありがとうございます。

市長

中庄の方からお越しいただいてありがとうございました。本当に唐琴の自治会さんは、もともと結束の固い地域だと思いますし、それぞれの皆さんが役割を果たされて、見本にされる地域だと思いますし、いろんな交流も生まれれば良いと思います。中庄でもぜひやりたいと思いますので。その時はお声掛けを必ずいたしますので。よろしくお願いいたします。

参加者 M さん

先ほどの現会長の近所に住んでいる、前に会長をしていた者です。中庄におりますけど、私は稗田で育って児島の小学校、児島中学校、児島高校というふうにおりますし、同級生も後輩も唐琴におるしという感じでございます。まったくのよそ者ではないと自分では思っています。で、質問の趣旨は市長が最初に言われた例の50年たったら人口が8000万ぐらいになるんじゃないかということに関連して、今から1カ月半か2カ月位前に、津山市が50年後の人口シュミレーションを。今現在、10万8千人ぐらいおると。それが50年後には4万9千人ぐらいになるんじゃないかと。その中で驚くことが、今現在10万8千人の中の70歳以上が1万9千人ぐらいおると。それが4万8千人になった時に、その年齢がやっぱり1万8千人おると。15歳以下が今1万4千人ですか。これがどうも3500人ぐらいになるんじゃないかと聞きまして、地方自治体そのものが崩壊していくんじゃないかなというようなことを考え、倉敷市が50年後にはどのような状態になっていくんだろうと思ひまして。

それと、いろいろ日本を見ておりましたら、仙台、関東、あとは太平洋地域、瀬戸内海から福岡までが生き残れる地域じゃないかなということも何かで読みましたけれど、その点、倉敷市の50年度と言うことに向けて、どういう取り組みとどういう人口推移をシュミレーションされてるのか、その辺をお聞きしたいと思います。

市長

ありがとうございます。全般的なお話にも関わってきますけど、倉敷市の人口は現在48万数千人でございますが、国の統計ではすでに、何年も前から人口が減るような統計が出ておりますが、おかげさまで今のところまだ増えておりますし、今の所まだ我々の推計では、今平成27年ですけど、最低でもあと5年ぐらいは増えるのではないだろうかと思っております。ですので、一般的な国の推計よりは減るのが遅くなってるのではないかと思います。今言われたように、県北では人口の減少率が高くなっておりまして。津山市さんの例は私が見てもちょっと極端と言うか、津山の市長さんが警鐘を鳴らさないといけないということを言われておりましたので、そういうことも踏まえての数字ではないかと思ひますが、方向としては県北の人口は大変減るといことになると思ひます。

まさに倉敷市の人口推計は、最初に言いました地方創生の総合戦略というものを、この27年度に全国どこも作るようになっており、その中で倉敷市も作るようになり、全国状況と実際の我々の状況を踏まえて作っているところなので、50年後何人になるかはまだ出てないんですが、ただ、ものすごく減るようにはならないようにしたいと思ひますし、国みたいに3分の2にならないために、こういう施策を打っていかうというのを入

れて出したいと思っております。もちろん県北よりも県南の方が人口の減り率は少ないと思っておりますし、我々が思っておりますのは、市の5月の広報紙にも出ますが、今、高梁川の連携を色々一緒にやっております。倉敷の美観地区あたりもそうですし、児島も水島も連島も玉島もそうですが、今我々がいる地面、川が流してきた土が堆積して、陸続きになって、児島は陸続きになって1300年位ですかね、ということがありますので、我々が今住んでることができるのは、上流の皆さんのおかげでもありますし、皆さん倉敷だけに住んでるわけではなく、親戚も新見とか高梁や各地域にいらっしゃると思うので、自分達だけがよかったらいいということじゃなく、これからの自治体が成り立っていくためにどうしても連携をして。合併とかいうわけではないんです、平成の合併で一段落しておりますので。倉敷市の人たちがいろんな地域に行ってもらえるようなことも考えて。もちろん我々の所にも来てもらいたいんですが。データを調べて見ましたら、倉敷市への観光は、なかなか泊まってもらえない。でも児島は、高松に行く人たちも含めれば、割と泊まってもらってる確率が高いですが、倉敷の美観地区になりますと、なかなか泊まってもらえる人が少なく、平均で3～4時間ぐらいで次の所へ行かれてしまって。携帯電話のビッグデータというので調べたんですけど、これを海が好きな人は児島と玉島と、笠岡の島嶼群に行ってもらって。それから町家が好きな人ということで倉敷の美観地区とか、それから高梁の吹屋とか、矢掛本陣とかに行ってもらう。もしくは天体が好きな人と言えばですね、この児島は天体が非常によく見えますし、また倉敷の天文台は日本で最初の民間天文台でもありますし、また浅口には国立のすごい大きな天文台が新聞にもでてますし、夜来たら止まらざるを得ないわけですね。泊まって何カ所かに行ってもらえるものを組んだり。そうやって、倉敷市にも大勢泊まってもらえるとしますので、いろいろ巡ってもらって、この地域が成り立っていけるようにということを目指しています。

人口の自然増、つまり生まれる方と亡くなる方の数で、生まれる方の方が多い。それから健康に皆さんが長生きしていただける。社会増と言い、こちらから出ていく人より入ってくる方が多い、それを目指していきたいと思っておりますし、そういうのを核にして総合戦略を示していきたいと思っております。あと半年ぐらいはかかると思っておりますけど。

参加者 N さん

4丁目に住んでいるNと言います。子育てに関して、夜間に子どもが調子が悪くなって、受け入れてくれる病院が、運が良ければ見てくれるんですけど、運が悪いと全然見てくなくて、たらいまわしのような感じによくなります。それをどうにか解消できるように、お願いしたいんですけど。それから、防犯に関して、イノシシが山によく出るみたいなのでどうにか、というのがあります。

市長

非常に現実的で身近で大事なことで、ありがとうございました。医療体制のことですが、今、子どもさんの救急の夜間受け入れが難しいというのが現実だと思っております。

今の倉敷市で児島地区で一番力を入れておりますのが、児島市民病院の建て替えでございます。この27年度には工事を始める予定ですので、もうちょっとかかるんですけど、平成29年のそんなに遅くない時期に、オープンして。あと2年位かかって申し訳ないんですけど。大きな病院なんでしばらくかかりますが。児島の医師会の先生も、それぞれ分

担して一生懸命頑張っていたらいいんですけど、常に救急を受け入れられるとなると、大きな病院が必要だと思っており、児島の市民病院の建て替えの段階に入っておりますので、もしかしてお子さん大きくなっちゃって間に合わないかもしれないんですが、そんなに遠くない時期に児島市民病院、いい病院ができる予定でございますので、皆さんに安心してかかっただけ、そういう病院になるよう頑張りたいと思っております。岡大の系列病院で、しっかり先生方にも来ていただける予定でございます。

それから、イノシシも由加山にたくさん出ると伺っております。玉島の山にも結構出ますし、最近では連島にも出ると聞いております。イノシシの生態系の問題もありませんけど、岡山県がやっているよりも倉敷市のイノシシ対策はこれでも一応進んでるんですけど、農業対策でも県だとかなり広くないと対象にならないんですが、市だと何軒かでも対象となるよう制度を一応変えてはいるんですけど【「県の制度は3戸以上でないと対象にならないが、市は1戸でも対象となる」が正しい。】、イノシシの方も猟友会の皆さんに協力していただいて駆除していただけるように頑張っております。年によって出る頭数が違うと伺っておりますが、もっと頑張ってもらえるように、とられる方の数が少なくなると、駆除も大変になってきますので、よく猟友会の皆さんと相談してやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

参加者 N さん

今、唐琴の2丁目、3丁目のところに、4カ所ほどやっただけでおります。対応ははしておりますから、市の方でもしてください。

市長

はい、そうですか。わかりました。時間が過ぎてしまい申し訳ありません。皆さんからいろんな面でお話をいただきまして、ありがとうございました。

最後に、唐琴地区の魅力、児島地区の魅力を発信していきたいと思っておりますし、日本人、外国人、外国人観光客の方ですね、特に2020年に向けて、大変増えてこれらと思います。最後に私からぜひお願いしたいのが、外国の方は地元の皆さんとのふれあいを求めてこれらです。英語ですっと長くペラペラしゃべるとのことじゃなく、人が歩いてきたときにちょっとこう、挨拶する。ハローとか、グッドモーニングとか言ってもらえたとか。もちろん日本語でこんにちは、でもいい。挨拶してくれたとか。そういうことを外国の方は求めてらっしゃって、そういうところが日本っていいなと思われて、またそれが発信されると思います。日本有数の畳作り、また繊維産業、また真田ひも、様々ありますので、きっとたくさん来られると思います。由加山にもたくさんいらっしゃると思いますので、ぜひ2020年あたりに向けてご協力いただければありがたいと思っております。

今日は時間が長くなりまして恐縮ですが、以上で皆さんとのふれあいトークとさせていただきます。

ありがとうございました。